

MT

14120

056

REEL No. 1-0336

0043



明治廿九年八月二十一日

大臣官

中田

電信案

明治廿九年八月廿一日

上事成

外務省

大隈の好む

査閲中百六号、件、志了表面

故障中入、一、西、三、成、形、解

政府、承、後、七、八、校、政、及、母、子、信、言、

以、由、者、之、者、音、之、信、之、概、ラ、レ、タ、

外務省

MT 14120

059

MT 14120

058

明治廿九年八月十九日
同日廿六日發遣

主任

政務局長 中田

親展

西郷海軍大臣宛 外務大臣

釜山絶影島石炭庫用地所(我石炭庫、西側)借

入方在韓露國公使ヲ申入レ由ノ慶右ハ先例

有之ヲニ付承諾スルノ外ナカレヘトテ閣外部大臣ヨ

外務省

リ内々相談アリタル旨在京城加藤安理公使ヨリ電報

有之ヲ右為ヨリ案考右及由通知也

第三六號送

MT 14120

061

MT 14120

060

明治四年八月十九日
八月廿二日發遣

主任

中田

親展

大生
陸軍中將殿
少村外務次官
木隈外務大臣

科啓陳者釜山絶影島石炭庫用地所(我石炭
庫、西側)借入方在韓露國公使ヨリ申入レ理由
、慶右ハ先例有之ヲ、附兼諾スル、外ナカレヘシトテ

外務省

閣外務大臣ヨリ内々相談アリタル旨在京城加藤

安理公使ヨリ電報有之ヲ、為申付得右及申通

知事敬具

MT 14120

063

MT 14120

062

陸軍省
陸軍省
陸軍省

大臣

電信課長

主任

次官

主管

電受第三五〇號 明治卅年八月廿七日午後三時五分 着

大隈外務大臣 加藤友

第百拾三号

電訓ノ件 閣外務大臣
臣等内相被テ之際之カ拒絶
手段ヲ取ラシメタルモ如何ニ
公使去ルニ臨ミ何事ヲ澤テ之ヲ排
斥シ不快ノ感ヲ抱カシムルハ臣等
深信ニ於テ思ヒ可ナリト國王對シ
希望ニ出テ強テ承諾ヲ其フルニ至リ
事柄已ニ此ノ如クナルヲ以テ英總領事
トニ被合シタル結果以上ノ雀山税関
長ニ寄テ急送ノ料欲ヲト招カシメ
地ニ就キ内々妨害ヲ試ムル様手段ヲ
取リ

外務省

MT 14120

065

MT 14120

064

REEL No. 1-0336

0048

8

暗號

明治 年 月 日 起
同 年 月 日 發遣

大官

奏

印

明治三十二年八月三日

第 九 号

陸軍大臣 大隈外務大臣

各地軍使等公使領事陸軍大臣ヤンジンニル

領事等地方官及之貴族、赴キヨリ右ノ地

島ニ於テハ可成入地ル、自檢分、為ナリト

外務省

云フ能テハ白人糾着、上ニ其挙動ニ注意

ス且、其地早シ他ニ赴リ、キニ其行先等探知ノ

上詳細内報スルニ

MT 14120

067

MT 14120

066

REEL No. 1-0336

0049

海軍省へ直達
軍務省へ直達
伊東少佐へ送る

大臣
次官
電信課長
主任
菅野田

電受第三五三號 明治廿九年八月廿一日 午後一時六分 著

大隈外務大臣 伊集院領事

九月九日
於九時即電示ノ事云云は彼領事
大左「何時日中ラハ夜ニタルモノヤ
又絶島ニ於テ露王カ石置置
使リ直意アリタルニ依リ露王ノ奉
勅注意シ居ルニ二十九日露王申
三ツツチ仁川ヨリ来リ其ニ在露
島ニ使領書記及乗込居ル時三
島ニ官吏ヲ申絶島ニ赴キ
島庫ニ於テ凡ソ三箇問四カ
マデカ「リ居ル且「中ノ
買入ルモノラ信ニ居ラ直チ
弁理云は「電信又露官吏及
果長ヲ右地ニ送ルコト
各「事信「意見ヲ送ルコト
委細郵便

MT 14120 069

MT 14120 068

至急

次官

九六

明治三十年八月廿一日

松方

政務官中田

主幹

事務

親展

海軍大臣

外務大臣

露國ニ於テ金山絶影島借地ノ義ニ同意ニ在ル

概加藤辦理ノ後ニ電報ノ次身ニ本月廿一日附横濱

外務省

送身六三條ヲ以テ申付置片屬本件ニ素ヨリ表面

故障申入レキ筋ニ趣之モ可成ニ朝鮮政府ニテ承諾

ル様程度ニ付其合ミヲ以テ内容ニ相違ノ手段ヲ執ルニトシ

同弁理ニ使ノ電訓ニ對シ右府迄日閣外部大臣

ヨリ内相談アリシ際之カ拒絶手段ヲ取ラシメタルモ如何

ニ露國ノ侵襲ニ臨ミ何事モ譚シ之ヲ排斥シ不快ノ感

ヲ抱カシタルハ從來ノ關係ニ於テ忍ビサル所ナリト國王新

ヲ希望シ出テ強ク承諾ヲ與フルニ至ルノ事情已ニ以テ如何

MT 14120

071

MT 14120

070

十月十日、英國總領事トモ談合シタル結果、以上全
山根院長ニ旨ヲ含シ、秘領事ト協力シ、實地ニ就キ
内々妨害ヲ試ムル様手取ヲ取リ、ト青翌廿七日
回^復有之候間、為御夫考、右及御通知候也

一 外務省

MT

14120

072

REEL No. 1-0336

0052

十七日、以テ英國總領事トモ談合シタル結果以上ノ全
山税関長、自今ヨリ我領事ト協力シ實地ニ執キ
内々妨害ヲ試ムル様手段ヲ取リトノ旨、同廿七日
同弁理ニ使テ、同電有之、但同所、海右及海左
知照、器具

外務省

MT 14120 075

REEL No. 1-0336

0054

次官

七三第送

明治三十年 九月 二日 起草
廿年 九月 三日 發遣

政務局長印

主任

象山

親展

西郷海軍大臣

大隈外務大臣

朝鮮國絶影島ニ於テ借入地所ニ乘ニ國之

別低ノ通在釜山保健院一尋領事ヲ電報有之

外務省

候間右馬差通候也

追テ別紙兼電報一拾九號ノ電示トアルハ去月

三十日發ル當地露國ニ係致附陸軍大臣佐ヤニテ子ル

以程當地ヲ奪ヒ釜山港ノ赴キテ右絶影島ニ於ケル

同國借入地所檢分ノ為ナリト云フ就テ同入利着ノ上ハ

其舉動ニ注意シ且ツ其地ヨリ他ニ赴ク事ハ其行先等探

知上電報アリ多シトノ要訓ヲ指シ其義有之

三府内政事務

別紙兼電報一拾九號ノ電示トアルハ去月

MT

14120

077

MT

14120

076

法可者
手澤部

大
10

次官
山

九二六

機密第二十八号

露國政府當藏絶影島ニ
石炭貯蔵所借地ノ件ニ付具

露國政府ニ於テ當該絶影島ニ石炭貯蔵所借地ノ件ニ付テハ駐京加藤總領事ヨリ電示ノ事モ有之テ其旨ニ付前テ注意致居テ去ル月廿九日午後同國軍艦ニ乗リ仁川ヨリ入港シ駐京露國公使館書記官ケルブルク(副領事)兼組長ニ同入リ直チニ上陸當該港税關長ハント氏ヲ訪問セリ月三十日當該港代理ト同伴石借地選擇ノ爲メ同島赴キタルニ付直ニ監理ニ就キ事情相探リテ露國同書記官、京城ヨリ携帶シ來リタル朝鮮政府ノ公文ニハ單ニ吾石炭庫ニ準シ同様炭庫敷地用トシテ絶影島ノ土地ヲ丈量算シ渡スバミトシテアリテ其間敷及場所等モ明示無之由ニ有之然ルニ同書記官ハ同島ニ在ル我海軍石炭庫、西ニテ炭庫ラ距ルハ四十町ニ我居留地、對岸ナル處ニ於テ四十町ニ百間程ノ土地ヲ選擇シタル處ニ有之矣然ル露國土地所ハ同島中第一ノ平坦ナル地ニシテ韓人家屋モ有之將來當該貿易旺盛ニ赴キテ其地ニ商賣地トシテ

在朝鮮國釜山港
日本
領事館

通商局
中田

MT

14120

079

MT

14120

078

實ニ極要ノ場處ニ屬スルヲ以テ監理ハ
之ヲ負負スルヲ好マズ他處ヲ選擇セ
ンテラ申談シタルモ同書記官ハ是非
共其地ニ決定セシテ主張シ遂ニ双方
熟議相纏ラズ監理ハ一應政府ノ經同
ノ事ヲ開クニ付即日川上書記官
監理署ニ書入シ右露國ノ擬定地ハ後日
當金山港擴張ノ妨害トナルハ必然ニシテ且
區域ハ石炭置場トシテ廣過キ何レニ
シテ不利益ナレバ及對ノ意見ヲ京城
ニ具報スベキヲ勸メタルニ監理モ容易ニ
承諾シ前文ノ意見ヲ附シテ政府ノ電報

領事館

MT

14120

080

スルコトニ内話致置矣又同日午後ニ至リ
同書記官監理ヲ訪問シ本日丈量シ
タル土地中ノ所有主ヲ取調シ明日中ニ通
知アリ度旨請求シタルニ監理ハ土地所有
主中或ハ不在ノ者モ可有之又日本人ニ關
係アル土地モ可有之ニ付明日中ニ取調
ノ道ヲキキ答ハタル由ニ矣同書記官ハ
監理ニ對シ殆ト骨白簡問敷奉勸ヲ示
シ且之非共明日中ニ調査スベキ旨相迫リ特
ニ日本入ニ關係云云ト云ヒントキノ如キ一
層權幕ヲ示シ其場ニアル藁ヲ取り取ニ
乘セ日本ニ擬シタルモ如クシテ指頭ヲ以
テ之ヲ強落シ日本入ニ加擔スカト骨白唱セ

MT

14120

081

此類ニテ監視ハ素リ朝鮮政府ノ命ニヨリ撰
 定ニテ會フコトナシ彼等爭フコトニアラ
 ガルヲ以テ中日間ニ實地取調、爲メ同道
 同島ハ赴キテ右ニ付同夜監視ヨリ該撰
 擇區域内ノ土地ニ於テ我人臣關係、有
 無ヲ取調ベ至急通知アリ度旨申來リ
 夫ニ付早速取調テ處右撰擇區域内
 我人臣ガ豫テ韓人ヨリ買収シタル土地終
 部ハ有之テラ以テ百ニ其趣監視ハ通知
 致置テ夫右日本人、三名ニシテ内ニ入ル未ダ
 韓人ヨリ買収切証文ヲモ取リ居ラガレラ以
 テ直ニ日付ヲ知リ該証書ヲ取リ置カシメ
 タリ他一名ハ証書ヲ有スル、ミナラズ當港監
 在朝鮮國釜山港 日本 領事館
 理署、以認ラモ所有シ居ルニ付右露國
 借入ノ撰定、地ニ故障ヲ申シムニハ屈強
 ニ付監視署ニモ比事ヲ通シ置キ同時加
 審辨理以便ニ電報致置テ右ノ外加該
 辨理以便ヨリ妨害ノ手段ヲハスマキ旨電
 示モ有之テ夫ニ付右岸庫、両行ニ接連シ地
 籍平坦ニシテ谷水若流出シ之ヲ狹ラ海
 岸ニシテ烟地有之此烟炭庫敷地ニ格合
 ノ場所ナレバ或ハ此地域ヲ撰擇スルコトモ可
 有之カト思考テ夫ニ付後日故障、一助トモ相
 戒ベキヤト存シ右海岸、烟地ヲ日本人ニ買
 入レシメ置テ露國書記官未金ニ撰定
 シタル全ク意外ノ場所ニテ水源モナク只平

MT

14120

083

MT

14120

082

坦ナル畑地且ツ其區域モ廣大ニ選擇シタ
ルヲ以テ見レハ或ハ露國ノ意ハ石炭置場
ノミヲ目的トスルモノナルヤ疑ハシク又右
選擇區域ハ先年總統路司ブララン各
國居留地ニ豫定シ置キタル地區ニ多少持
居ルヤニ聞ハシテ分直ニ露國稅關長ヲ
請フ露國ノ借用セントスル地所ハ釜山港則
チ各國ノ利害ニ關係ヲ及ホスモノナルガ其意
見如何ヲ請フタルニ同ハモ不同意ナルニ付
其趣京邸其外館ハ陳情スベキ旨内語有之
宗ニ付尚ホ其事ヲ勸メ置キ尚ホ本館ニ陳
見聞、次第ハ時々加藤總理公使ニ及
電報宗比段具申及テ敬具

在朝鮮國釜山港 日本 領事館

明治三十年八月三十一日

一 外務次官 小村 領事 伊集院 亮

外務次官小村 領事 伊集院 亮

追テ本件ハ大要ハ昨三十日付露國陸軍大
佐ヤンツナルニ聞スル奉勅注意、件未電
訓ニ對スル伺ハ本日付テ電信ノ序ヲ
以テ申進置キ比段申添テ矣也

MT

14120

085

MT

14120

084

REEL No. 1-0336

0059

次官

14120

九月九日接獲 主官 政務局 中国

機密第三十號

客月廿日付第七十五號御電示ニ對シ同廿一日
 第九號電報ヲ以テ及海報置候通廿日入港ノ
 玄海丸ニ就キ取調候ヘドモ一向御電示ノ露
 國陸軍大佐ヲシキモノ乘込居ラズ候ニ付探
 聞ノ便宜上同人日本出發ノ日及御伺候次第
 ニ有之候其後當港出入船舶ニ對シ不意注意
 致居特ニ去ル一日入港ノ浦潮行大連丸ニ就
 テハ充分ニ取調候處長崎ヨリ乘船シタル露
 國海軍大尉「アラシ」ミヤロフ「ト」稱スルモノ
 アリ年齡三十位ニシテ朝鮮人一名ヲ通辨トシ
 テ伴ヒ居リ元山碇泊ノ露國軍艦「クセル」號ニ
 乘込「タメ」ニ同港マデ便乘スルモノ、趣ニテ

在朝鮮國釜山港

領事館

大連丸ハ昨日マデ當港ニ滯泊候ニヨリ其間
 在露國人ノ舉動注意致居候處同人ハ上陸ハ致
 サザリシモ八月三十一日付機密第三十八號ヲ以テ
 申進候絶影島内石炭置場撲定ノ為ノ在京城露
 國公使館書記官ヲ載セ乘航シタル同國軍艦ニ
 エウ井ツチヲ辨「ハ」右海軍士官屢々往來シ多
 少絶影島石炭置場借入ノ相談ニモ與カリ
 タルノ形跡アリテ大連丸出帆當時マデ同艦
 ニアリ帰り来ラズ大連丸ヨリ乘船ヲ促カサ
 シ漸ク帰船元山ハ赴キ候由此外ニ露國軍人
 ラシキモノ無之候右為御參考申進候故具

明治三十年九月三日

一等領事 伊集院彦吉

在朝鮮國釜山港 領事館

MT

14120

087

MT

14120

086

外務大臣大隈重信殿

在朝鮮國公使館

大正三年

MT

14120

088

REEL No. 1-0336

0051

はし平者 全漢部 部 函 志

九月十二日 授受 主 警 政務局 在 田

機密某三十一号

絶影寫ニ於ケル露國石炭置場
借入ニ関スル件

客月廿一日付機密某二十八号ヲ以テ
及其報置矣絶影寫露國石炭置
場撰定ノ件ニ就テハ其後出張露國
書記官取極ヲ急キ有迫其他ノ手
段ヲ以テ迫リシモ當港監理ハ之ニ應
セズ且ツ撰定地ハ當金山港ニ於テ必
要ノ場所ニ付石炭庫敷地トシテ貸
与スル能ハザル旨ヲ主張シ京城ハ屢
往復之末露國書記官モ遂ニ當地
ニ於テ取極ノ要領ヲ得ズ本日露國
軍艦レユウキツ号ニテ發程帰任致
矣尤モ露國書記官ハ日取初撰定シ
タル地所ノ外ニハ更ニ撰定スル慮ナク
飽クマテ右地所ヲ借入ニ決心ノ趣ニテ
何レ京城ニテ朝鮮政府ニ迫マルコト
ナラント存シ矣本件ニ就テハ當港
監理ハ京城ノ訓令等ヲモ示シ何等ノ
事モ打明ケ内話致矣ニ付本官ニ於
テモ天ニ便宜ヲ得テ必要ノ注意ハ時
々監理ニ内話致置矣又今日ニ於テハ
露國撰定地ノ不可ナルヲ監理モ充分
認ノ公私信ヲ以テ京城ハ意見申遣矣
趣ナレハ此際朝鮮政府ニ於テ動カザレハ

在朝鮮國金山港

日本

領事館

MT 14120

090

MT 14120

089

REEL No. 1-0336

0062

海軍省 露國領事館 函件

九月十三日 接受 主管 政務局 三三

機密 第三十一号

露國領事館 函件

第三十一号

容月廿一日付機密第三十八号ヲ以テ
 及其報置矣絶影寫露國石炭置
 場撰定ノ件。就テハ其後出張露國
 書記官取極ヲ急キ有迫其他ノ手
 段ヲ以テ迫リシモ當留港監理ハ之ニ應
 ゼス且ツ撰定地ハ當金山港ニ於テ必
 要ノ場所ニ付石炭庫敷地トシテ貸
 与スル能ハザル旨ヲ主張シ京城ハ屢
 往復之末露國書記官モ遂ニ當地
 ニ於テ取極ノ要領ヲ得ス本日露國
 軍艦レウウキツ号ニテ奈程帰任致
 矣尤モ露國書記官ハ日取初撰定シ
 タル地所ノ外ニハ更ニ撰定スル慮ナク
 飽クマデ右地所ヲ借入ニ決心ヲ趣ニテ
 何レ京城ニテ朝鮮政府ニ迫マルコト
 ナラント存シ矣本件ニ就テハ當留港
 監理ハ京城ノ訓令等ヲモ示シ何等ノ
 事モ打明ケ内話致矣ニ付本官ニ於
 テモ夫ニ便宜ヲ得テ必要ノ注意ハ時
 々監理ニ内話致置矣又今日ニ於テハ
 露國撰定地ノ不可ナルヲ監理モ充分
 認ノ公私信ヲ以テ京城ハ意見申出退矣
 趣ナレハ此際朝鮮政府ニ於テ動カサレハ

在朝鮮國金山港

日本

領事館

MT 14120 090

MT 14120 089

露國ハ遂ニ他ノ地基ヲ撰マザルヲ得
サルニ至ラシカト存シ矣右露國撰定地
ノ位置及面積略圖當港守備隊ニ於テ
竊カニ調製長シタルモノ有之矣ニ付右相
添ハ此段申進矣敬具

明治三十年九月六日

在釜山

一等領事伊集院彦次郎



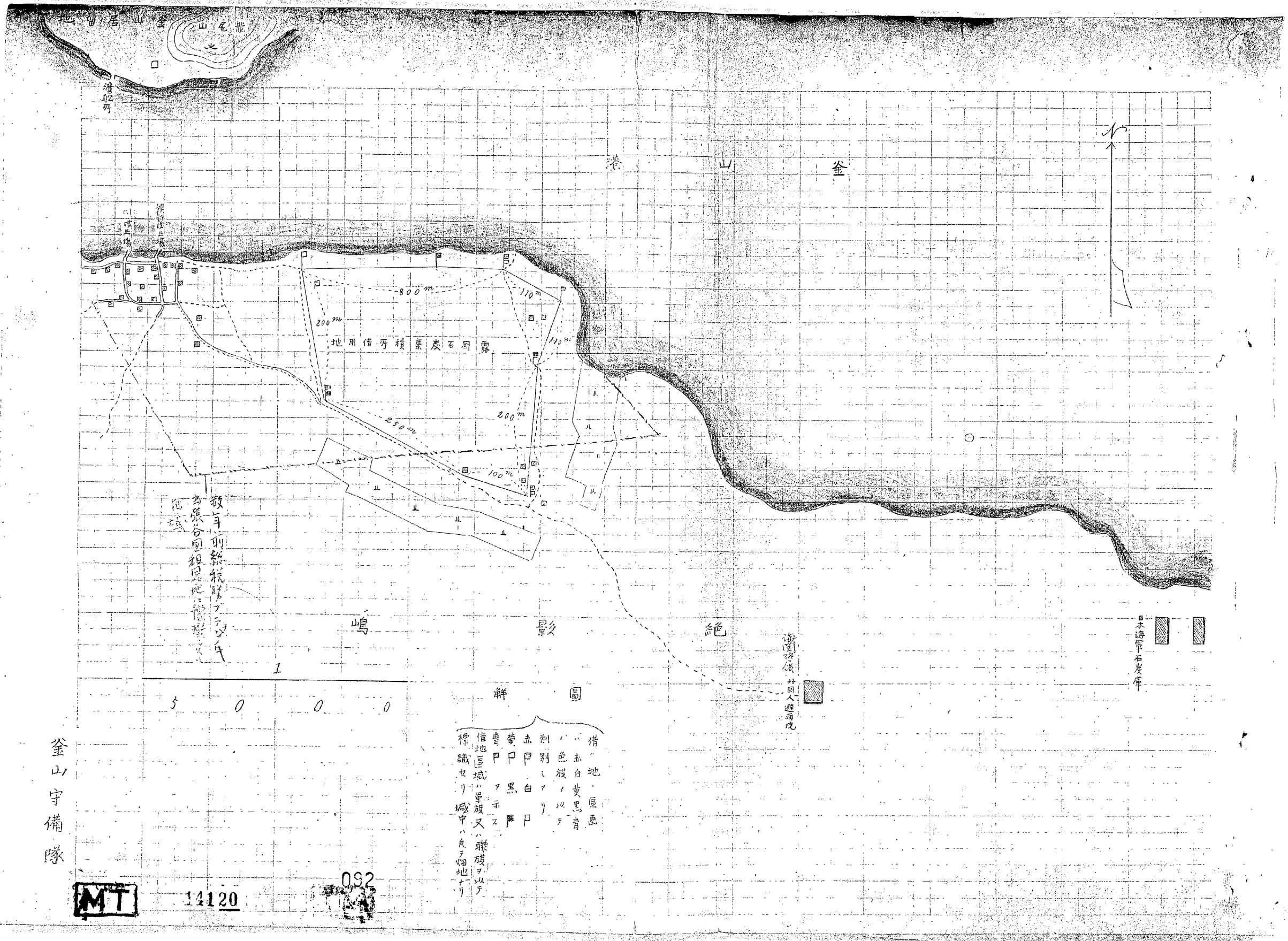
外務次官小村壽時大郎殿

在朝鮮國釜山港 日本 領事館

MT

14120

091



REEL No. 1-0336

0065

再

明治三十年九月九日
同 年 月 日 發遣

政務局長 中田

主任

親展

海軍大臣 東郷平八郎

大隈外務大臣

閣下政府 奉命 渡島 石炭貯蔵所 備地

三言 別紙 通右 同 渡島 津島院 一 事 領事 事 具

外務省

報有之 同 右 寫 奉 事 具

副 中 津島院 領事 奉 事 具 二 十 八 日 寫 事 具

九六

MT

1120

094

MT

14120

093

明治三十年九月九日
同 年 八月廿六日
日起算
日發遣

主任

政務局長 中田

親展
奉之信

大謀本部 陸軍省兵部

小村外務次官

據付陳有露國政府奉山港總領事
貯藏所借地之件
外務省

院一軍領事員 且報有之同為計天考右
鳴善進任致具

別件 俸庫院領事 奉檢案第千八百號 鳴善

MT

14120

096

MT

14120

095

REEL No. 1-0336

0067

明治三十年九月二十日
同 八月廿三日 起草
山 月 二十日 發遣

主任

政務局長 中田

親展

西郷海軍大臣

大隈外務大臣

一七

本月十四日附機密送身六次詳々以テ露國政府奎山港

陸島、石炭貯蔵所傍地ニ據ルニ在リ同港伊集院領事

外務省

ヲ報告書回差付ニ其屬右付令取別紙ニ通同

領事ヲ續報有之月同右回差付令取別紙ニ通同

(別紙一、伊集院領事ヲ機密送身三十五回)

MT

14120

098

MT

14120

097

及
伊

明治三十年九月三日
同日發遣

政務局長

中田

主任

事務局長
中田

親展
奉之信

大日本帝國
陸軍少佐

小村外務大臣

樺州陳着露國政府在出浪島之在野所

傍地一併之特別通在回棧伊集院領事

外務省

續報有之傳聞及津奉各口大馬車運送

(別紙ハ伊集院領事事務所第三十二号ノ寫)

MT

14120

100

MT

14120

099

REEL No. 1-0336

0059

平 采 化 独 用
九一
八三
七九
七八
七五
七九



明治三十年九月廿一日
同 年 八月廿一日發遣

政務局長 中田

主任

親展

露、米、英、佛、獨、清

各工使來(右通) 大隈外務大臣

去月中露國政府、於金山德影島内、地所(秋

石炭庫、(西側)ヲ同國石炭庫用トシテ借入トシキ旨在韓

外務省

同國公使ヲ朝鮮政府、向テ申入ル由、屬右、先例凡、

府議決スルノ外、カカレシト閣外部大臣ヲ内々相談アリキトノ

趣在、京橋加藤雜理ニ使、同月十八日電報、傍有之、

三月廿二日日本大臣、同雜理ニ使、向テ本件、素来、

表面、諒解申入レ、筋、無之、可成、朝鮮政府ニ於テ

承諾セザル様、程度ヲ以テ、内容、相備、手取ヲ執ルキ旨電

訓社、軍、廣、同廿七日、同雜理ニ使、右、在、過、日、閣外

部大臣、内相談アリ、之際、力拒絶手取ヲ取ラレタルモ、如

MT

14120

102

MT

14120

101

何せ之露國之使ノ去ルニ隨ヒ何事モ得テ之ヲ排斥シ不修
 國ヲ相クシルハ從來ノ關係ニ於テ忍ビサル所ナリト國主斷テ
 弁望ニ出テ強テ承諾ヲ與フルニ至リ事情已ニ以テ如何ナルヲ
 以テ英國總領事トモ談合シ其結果以上ニ釜山税関長ニ
 旨ヲ含メ秋領事ト協力ニ會地ニ秋キ内々妨害ヲ試ムル様
 手致ヲ取リトト切回雷有ク候然ル處其際本邦露
 國之使館附武官ヤ之ニテハ大佐池野島ニ於ル右借
 入地所檢分ノ爲ノ備地ヲ發シ釜山ノ切キ多トト相
 外務省
 聞ハ候ニ付同月三日在釜山伊集院領事ニ向テ同
 大佐着釜後ノ舉動并ニ其行方等探知上電報スルキ
 様電訓駐軍官屬大ニ對シ翌三十日同領事より昨
 三十日入港ノ旨海丸ニ秋キ取調ク先ニ一向右大佐ニテモノ乘
 込ニ居ラス又本件借地ノ事ニ秋テハ豫多ク加藤辦理ニ便シ
 一電示ノ後弟下リ先ニ依リ右對シ露國ノ舉動注意ニ居
 一先處去ル廿九日露國軍艦「エウ井」等何カ入港シ
 同艦ニ在京城露國之使館書記官ケルル夕ニ乘込ニ居リ

MT

14120

104

MT

14120

103



同人、翌三十日釜山港監視ヲ伴ヒ德島ニ於キ我石
 炭庫ノ右ニテ凡ソ三百間四方ノ地所ヲ探査セリ以テ地所ハ
 我々獨旭ノ對岸迄カク居リ且ツ日本人ハ韓人ヲ密カ
 ニ買入レタルモノヲ合シ居ルヲ以テ力子ニ同難陸云厚ニ向テ
 雷報シ又同港監視及稅園長モ右ノ地所ヲ偵査スルハ
 及對ニ各ノ官職ニ意見ヲ送合ト、語シ居ケリトノ地所
 實有ク是後尙同領事ヨリ大ニ同紙甲雖ニ通
 詳報ヲ集得テ又其後或ハ別紙乙雖ニ通報有

外務省

之候間大馬切添ハ以改局所ハ海軍近具

(別紙甲乙、係陸軍集得身ニ于合、馬)

(別紙乙、係同領事集得身ニ于合、馬)

MT MT

14120

106

MT

14120

105

去月十日頃露ノ使ヨリ青島外部大臣ニ對シ

法軍書
參事官

參事官

十月十八日接覽

主權 政務局 中臣

機密第一〇號

大臣

次官

機密第一〇號

絶對島青島ニ關スル露ノ使ノ申入
去月十日頃露ノ使ヨリ青島外部大臣ニ對シ
絶對島ニ石炭庫用敷地借入ノ件照會有
之由ニテ右ハ先例ニ由リ承諾スルナカルベシトノ
趣ヲ以テ外部大臣ヨリ本官ヘ内ニ相考有
之即其旨旨付及要稟候處同々貴處才
力ニ辨ヲ以テ右ハ固マシ表面故障申入ルベキ
筋ニ由リ成ルベシハ朝鮮政府ヲシテ承諾
セシメサル様内密ノ手段ヲ執ルベキ旨御來訓
ニ依リ候然ルニ先是本官ハ外部大臣ノ内相談
ニ對シ強ク先例ニ拘泥スルニ及ハズト金氏率
止ヲ得サレバ同様に國力ノ衰達トモニ將來海防上

MT

14120

107

概要ノ地ナルヲ以テ己ニ日本政府ニ貸與セル地
 區ヲスラ折モアテハ敷田ヲ求メテトノ希望ヲ有
 スル位ナレバ言番ノ法相等ニハ何分應ニ難シト
 答謝絶スル方可然ト勸告致置候事出尚又
 此間度ニ基キ同日二十三日本官閣下前ヲ
 二階ノ使トノ交渉ニ関シ其後ノ模様相尋候
 儀意外ニモ同官ノ答辭ハ露ニ使去ニ臨ミ
 何事モ總テ之ヲ排斥シ不夫ノ感ヲ抱カシルハ
 從來ノ關係ニ於テ忍ビザル所ナリト國王使
 テリ希望ニ出テ己ニ昨日承諾ヲ爲シタル合更
 致方無之唯々以上ハ時株具計ニ海防上
 必要ト辯振リ以テ日露共ニ撤回ヲ求ムル
 外方法ナカレバトノ事ニ有之事情己ニ如クナレ

ノ事録四ノオノ作書

MT

14120

108

REEL No. 1-0336

0074

上ハ本件ハ最早同官ト、内訖ハ無益ナルノミナ
 ラス者付殿外部ハ己ニ全ク露ニ使ノ有ニ欲信
 セラシ何事モ打明ケ相訖難被呈次方之ニ
 紙令事私交上ニ出リルニセヨ事付打明シ
 結スルハ得策ニアラサレバ寧ハ實地ニ就キ能
 大ケノ妨害軍動ヲ試ムルニカスト思料致候
 脚同二十五日英總領事ジョルダン氏ヲ訪ヒ事
 打明ケ内々商議ヲ試候慶同官モ本官同
 様ノ意見ニ有之且現ニ金山税関長ハソトハ
 英國ガロコシユルヲ兼テ居ルヲ幸ヒ之ニ内刻
 ヲ與ヘ日本総事ト同トテ妨害集ヲ執ラシ
 ムベシト相約シタルニ付權又本官ハ其歸路總
 務務司ブララン氏ヲ訪ヒ同長ヨリソトニ豫注
 意ヲ與ヘシメント欲シ内訖致候慶同長モ之ヲ
 兼諾シ突モ角モヨルタシト協議ノ上相毒
 盡力可致旨約言致候ニ付、
 甲舞ノ通リ事集候領事ニ度報シ能フ丈
 ノ妨害手段ヲ執ラシムル事トセリ、
 下ト別紙甲、一ニ三ノ通リ、
 將又露國ニ使彼等ケルベシハ絶無息
 三行ケル同敷也踏查ノ任務ヲ帯ヒ軍艦シラ
 イチ舞ニ案組ニ金山ニ赴キ我石炭庫ノ西側
 ニ於テ約三萬方米突ノ也訪ヲ撰定ニタリ然ルニ
 右地所ハ先年總務司ブララン同訖ニ
 出張シ各國租界豫備地トシテ撰定シタル地
 区及ヒ我居留人ノ所有地ヲモ包含セル旨付

在朝鮮國京城日本公使館

MT

14120

110

MT

14120

109

集候領事ヲ来度ニ接候所本官ハ九月
 一日國分通譯官ヲト新ニ遣シ殿外部ニ向
 ヲテ我居留人ノ所有ニ関スル地所ハ右敷地
 区域内ヨリ取除カレタキ者係シ一年ニ炭庫建
 造ノ目的トスルニハ左迄廣大ナル地區ヲ要セザル
 ベク随テ我借用炭庫地ニ面積ニテ事足
 ベトノ勸告ヲ與ヘ且之ニ同意ナルニ於テハ早速
 釜山港監理一割電スルキ旨ヲモ係セテ申
 マシメ候慶同官ハ之ニ同意シ即日別紙乙群ノ
 通り監理事務ニ刻電ヲ發シタリ右ノ刻電
 ヲ發スルニ當リ殿外部ハ稍躊躇ノ色アリタルモ
 同紙辯以下各局長等ノ強スル所トナリ終ニ同
 意シタルヤニ相聞候釜山監理ハ之ヲ以テ出長
 書試官ニ及覆該明シタルニモ拘ハラス去々試官
 ケルニルグ氏ハ固ク自致ヲ執リ變更ハ論サレシ
 讓歩ヲモ肯セザリシトノ事ニ有之候然ルニ斯ク
 專斷ニモ露國を以テ行テ各國租界ノ豫備
 地ヲ敷地内ニ取入ミタルハ不審ナリトノ議論使
 臣間ノ問題ト爲リ偶然之シカ及對者ニ好辯
 再々與ヘタル結果即チ英領事外新大
 臣ニ面テ議論ノ末右租界ノ豫備地ヲ也ニ
 賃與セザル事ニ同意セシメ尚又之シカ言質ヲ
 収ムル爲メ別紙丙丁群ノ通り文書ヲ送渡スル
 ニ至リ而シテ試官ケルニルグ氏ハ本月上旬
 歸京ノ上撰定地ノ圖面ヲ携ヘ一昨二十日外
 部ニ出頭シ恒辯官永喜氏ト於テ論長時明

在朝鮮國京城日本公使館

MT

14120

112

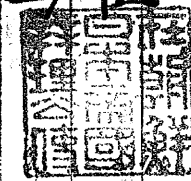
MT

14120

111

三月リタルモ高坂辦ハ各國租界豫備也ナル
ノ故ヲ以テ始終之ニ抗議ニ同意セザルヲ以テ終
ニ其結局ヲ見ルニ至ラスシテ一ト失ツ引取リタル
ハニ有之候
此段別紙相示ハ及具報候故具
明治三十年九月二十四日

辦理之使加藤 增産



外務大臣伯爵大隈重信殿

在朝鮮國京城日本公使館

MT

14120

113

REEL No. 1-0336

0077

甲申

八月二十日午後三時五分

伊集院経平

加藤三之助

露王政府ハ今般竹島ニ行テ我石炭庫ノ西
 手ニ着リ其石炭庫場ヲ得テソシテ露王政府ハ
 申入レ既ニ其承諾ヲ得リ存之ヲ故障申
 入ルハ承諾ニ之ナキモ我政府ハ甚多之ヲ好ミガ
 ンシテ成ヘタル承諾ヲ其ヘサラシメント欲シ盡力シ
 ン氏責感ナカク其申出ナカリシ状テハ責メテ實地
 ニ就キ妨害ヲ止ム成ルヘリ之ヲ成リ立タシメサレヤリ
 夜度ノ其責言ハ秋園長ハト氏ト秘密拒議
 ラ居シト云ニ妨害ノ手段ヲ極サレトシ望ム故儀
 ハ露地英領領事トモ内渡リ遂ケ同意ヲ得
 ント氏ハ同信領事より通信スルノ約束ニ至
 テリ而シテ露王領事ト友ケルニシテ露地推定
 ノ旨本リ露地ト其地ハ向ニタルヲ其比合シ以
 テ至急決断力アリタシ

在朝鮮國京城日本公使館

甲一

八月二十日午後三時五分

加藤三之助

伊集院経平

露王が竹島島ニ石炭庫場ノ借入ノ件ニ此
 儀示シ越後系然ルニ妨害ノ成功甚ク期シテ
 三出未得人限リノ事ハ彼ノ積ラキ左ノ露地
 町園長ハト氏ハ露王海軍士官等ト款文
 アリ且ル如様ノ事ニ慣レサレハ英領領事より軍

MT

14120

115

MT

14120

114

ク且ク強ク内刻スルノ必要ナリ輕解政府ノ其度
ノ事ハ好マサルモ俄ニ政府ノ産出ニ此ヲ止リ得ル
承諾シタルモノナルハ露國ガ欲スル敷地ハ我石炭
庫ノ西手ノ若クハ其附近ニ限ルモノナルハ其
ニテハ我政府ハ好シク其トシテ萬一以上ノ
金ヲ出スルヲ美濃セラルヘキカ事ノ宜キナリト其
際ニ金ヲ握ラシテ監理署邊ノ慶ヲ飾シテハ如
何ナルヤ

甲二

月廿七日午後一時四十分

伊集院総事

加藤三使

シト氏ノ露國士官ト親交ノ程度ノ本件ヲ打明
ケ内議シ難キ程ノコトナルハ露國ハ英國ガロコシ
ル

在朝鮮國京城日本公使館

如キモノナシハ特ニ英領領事ハモ注意シ興々ニ
必要アルコト高キ再投リ乞フガ二項産出ニアラザル
モ義理ニ此ヲ止ムヲ得ル承諾シタルナリガ三項他
好位運キヤヲ以テ己ヲ得ス我炭庫ノ西手ヲ望ム
モノハ如シ金ヲ出スルハ我政府長テ承諾セザルベシ

甲三

月廿七日午後一時五分

加藤三使

伊集院総事

シト氏ハ餘り秘密ヲ打明カスハ得策ナラズト官モ
私文ヲ有テハ可ナリ秘密ニ被スモ少シク秘密ノ一
ノ事ヲ打明サズ同人ハ吾等ニ於ケル我協力ヲ長
クシテ形跡ヲ露ニ我兵士ヲ居留地内ニ建ル

MT

1120

117

MT

14120

116

為ノ樹木ヲ倒シ山ヲ開クヲ以テ其父監理ニ向
 故障ヲシフマキヲ勸ムタルモ監理ハ我居番地内
 事ナレバ致方ナシト答ヘシニ此ト日本ハ勝
 手ナリ自今ヨリハ宗極ニ意見ヲ通スナリトテ
 取リタリト内閣セシテアリ右ノ次ナレバ英使
 事ヨリ注意位ニテハ働クハ貴業ナシ又刻令アルモ
 同人ニハ妨害ノ妙案アラサルヘリ左ニハ妨害ノ道ハ
 我炭庫附近ノ土地ヲ占ムカニ實取ル外ナカルベキモ
 我政府金ヲ出サスハ之モ致方ナシト金アリテモ
 時日切迫致シ居ん故へ成効ハ期シ難シ露國ガ
 石炭運賃高ク有スルハ誠ニ好マサルナレド已ニ
 政府ノ行テ廉議シタル上ハ一國ノ少シノ才
 位ニテハ手ヲ引クマシナマシイニ好業ノ小細工ナシテ成
 効モサレハ却テ不都合ナレバ其トハ我ハ痛癢感
 有ル風ヲ疑フテハ如何ナルヤ至急指揮シ乞フ

在朝鮮國京城日本公使館

MT

14120

118

甲四
 月三十日午時四時
 伊集院使事
 加藤三丈
 日英西政府トモニ対及對ノ手段ヲ取リ得ヤキ性
 質ノ事件ニテラサレハ皆小細工タルヲ受カレズ又
 其成否ハ豫メ知ラズニアラス其モ角モ貴官ノ
 出来得ヤキ範圍内ノ行テ得ル大ナル地盤ヲ
 偵査セシメザルニテモ内容ニシテ機ノ手段ヲ施シ
 其模様ハ時ニ電報アリタシ又英使使事ハハ
 貴官ノ意見モアルニ付其旨申入レ何等ニト

MT

14120

119

ハ申是ハサハルトニ致シ至リ但し任務務司ヲ監
理ト三合ニ地所ヲ撰定スヘキ旨ヲ訓令シアリタ
ル旨

甲五

一月三十日午時九時十分及同十時半

加味三使

伊集院使事

法度示敬原本日監理ノ律ニ露國等ニ及及ニ
艦長ハ地所撰定ノ旨ノ他島ニ至リ我炭庫ノ
西手積戻辟病院ヨリ西海岸ヲ沿フテ二百里
餘山手ニ同乘印ルシテ建テタリ之ハ先年積務月
カ各國居留地ニ豫定シタル地所ニ停メ居ルニ
マタルニ好キタリト思ヒ本日ハトニ直會シテ
及對ノ意ヲ示シ意見ヲ聞ヒタルニ彼モ此地ハ及

在朝鮮國京城日本公使館

對ナリ意見ヲ稟成ニ申送ルニ該セリ依テ英使使
事ヲ其添ハントニ注意スルニ要ナラシ直ニ御所
リタルニ監理モ此地ハ科ノ地有自ノ家屋モ未
ズん故地ノ地所撰定セハ標記セシニ露國士官聞
ヒサレリ不満ナリト事ヲ聞ヒタルニ直ニ川上
武生ヲ遣ハシ右ノ地所ハ釜山港ニ及要ナラシ及村
ノ奥ヨリ政府ニ覆報ニテ上申スルキヲ勅メシ
承諾シタリ右ノ地所撰定ノ地所ハ釜山港
各國モ不便ヲ感スルモト認メラシ又釜山港
擴張ニ便ナラシクテ政府
法注意アリタシ

MT

14120

121

MT

14120

120

館使公本日

乙号

在金山監地式ノ電投

俄占煤地甚廣亦係擬定租界且有人家田
省豈可慮在並詳該明稍就空閒繪送該地
形書向俄使商定外部

MT

14120

122

REEL No. 1-0336

0082

丙

敬啟者前于本月二日會晤之際有承

貴大臣言明昔年擬定釜山之絕影島作為各國租界之地

貴國政府萬不准有更改作為他用之處等語查此事實屬

緊要而本總領事所述聆之以上語言是否符合相應備函

請煩

貴大臣查照見復是荷泐此煩頌

勳社

朱通典頓

九月九日

丁

敬覆者頃奉

大函閱悉絕影島擬定各國租界不准有更改作為他用一

在朝鮮國京城日本公使館

事查絕影島各國租界畫定之地決不准他用一定之理今

須無齟齬也煩頌

勳安

高禮照

MT

14120

124

MT

14120

123

REEL No. 1-0336

0003

再回

明治三十年十月十三日起草
同廿年十月十五日發遣

主任

政務局長 中田

親展

露公使の報告

在 露、英、佛、清、各在光 (九通)

絶影息借地、関し露公使より朝鮮政府へ申込

ノ件、台光九月廿日付機密符 (露九一、英八三、法一七六、
佛七八、清七九、(未法中)

号、以て在釜山伊集院領事ヨリ、報告官寫美進

外務省

五、於露公使別状、通り在朝鮮加藤公使ヨリ

報告有之、其間為中心持在官及送付其器具

(別紙) 明治三十年昔子官の機密符六〇号、在韓加藤公使、
其後官の機密符甲号、丁号、乙号、

英 二〇一
佛 九一
露 八七
未 一〇五
日 九八

MT

14120

126

MT

14120

125

REEL No. 1-0336

0004

次官

第八號

明治三十年 十月 十六日 起草中
同日 十月 十六日 發遣

政務局長 中田

主任

大隈外務大臣

西郷海軍大臣宛

絶影島併地に關し露公使より朝鮮政府に申込
件に付九月二十日付秘密送分七一号ヲ以テ在露
山伊集院總理事より報告書ヲ呈進スル事ニ付
紅別紙に通し在朝鮮加藤公使ヨリ報告有之候
間為参考考在露公使送付紙ニ

外務省

(別紙明治三十年九月二十日付秘密送分六〇号在露公使
報告書及在露公使送付紙ニ付)

MT

14120

128

MT

14120

127

REEL No. 1-0336

0005

明治三十年十月十四日起草
同日發遣

主任

政務局長中田

大隈外務大臣

川上考謀本部次長宛

拝啓陳者絶影島借地ニ関シ露公使ヨリ朝鮮政府ニ申込ノ件ニ付別紙ノ通リ在朝鮮加藤公使ヨリ報告有之此間為内考右馬友

外務省

内送付並敬具

(別紙明治三十年九月二十日付機密第六号在韓加藤右馬友及内務省中田考謀宛)

MT

14120

130

MT

14120

129

REEL No. 1-0336

0006